

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標		生徒一人一人の夢や志の実現に向け、横断的・総合的な探究等を通して、課題の発見と解決に必要な知識及び技能など確かな学力を身に付けるとともに、魅力のある教育活動により豊かな人間性を育み、新しい時代を逞しく生き抜くための、主体的・協動的行動ができる人間を育成する。			学校整理番号	18
		学校名		浪岡高等学校		
					全日制の課程	本校
(2) 現状と課題		基礎学力が定着していない生徒や学習習慣の欠如、基本的な生活習慣が身につけていない生徒が見られる。そのため、国・数・英・情報の少人数指導や学び直しの時間設定による基礎学力の定着、学習習慣や生活習慣の確立に向けた指導を行うとともに、教職員の連携により、学校行事や部活動等による体験的な活動、キャリア教育、資格取得を充実させ、一人ひとりの意識を高め、自己の進路志望実現に向けて取り組んでいく。			自己評価実施日	令和8年2月20日(金)
				学校関係者評価実施日		令和8年2月25日(水)
(3) 重点目標		1 基礎学力の定着・向上を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。			(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
		2 規範意識を涵養し、責任を重んじる態度を育成する。				
		3 自己と社会との関わりについて探究し、望ましい勤労観、職業観を育成する。				
		4 自他を愛し、多様性を尊重し、寛容さと創造性を持ち「生きる力」を育む人間を育成する。				
		5 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実を図る。				
		6 家庭や地域社会と連携し、地域活動への積極的な参加を通して、郷土に誇りを持ち社会的に自立できる人間を育成する。				
(4) 結果の公表		・学校ホームページで公表する。			学校評議員 4名 いじめ防止専門員 1名	
自己評価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	基礎学力の定着・向上を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・ 学習指導の充実 学習内容が定着するようなわかる授業展開の実践に努め、生徒個々の学習到達度を把握しながら、学ぶ喜びを実感させる。	・1年生では多くの授業で、2・3年生でも一部の授業で少人数授業を実施し、一人ひとりに目を向け理解度を高めた。 ・1人1台の情報端末を活用し、対話的な授業を多く取り入れ、個々が主体的に活動する場を多く展開し、深い学びにつなげた。	B	・情報端末は大いに活用すべき。 ・基礎学力が社会に出ると必要という意識をもって授業に取り組んでほしい。 ・個々に合わせた授業ができている。 ・学習到達度の差が大きい生徒たちに柔軟に対応している。	・生徒の確かな学力を付けるため、今後も少人数授業を行って行きたい。 ・対話的な学習により、主体的に活動する場面を作る授業展開を行う。 ・タブレットなど、ICT活用の場を増やしていく。
2	規範意識を涵養し、責任を重んじる態度を育成する。	・ 生徒指導の充実 心の結びつきを基調とした生徒指導を行い、生徒一人一人が、心豊かな学校生活を送ることができるよう生徒理解を深める。	・登校指導や挨拶運動を行い、日常生活指導を充実させ、規範意識を培った。 ・行事では個々の役割を与え、活躍する場を作り、活動させることにより責任感を高めた。 ・面談週間や浪高おしゃべりウィークを活用し、人間関係を構築し生徒一人ひとりの理解を深めた。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門機関を活用し、多様な生徒への支援を行った。	B	・コミュニケーション能力が足りない生徒が多いので、おしゃべりウィークはとて良い。それと同時に人の話を聞く力身につけさせたい。 ・これから社会に出た時、自然に自分から挨拶ができる人物になってほしい。 ・面談習慣やおしゃべりウィークを通して「相談する力」や「相談しやすい環境」を育むことができていく。 ・よく指導ができていく。	・日常生活の中で生徒との良好な人間関係を築き、基本的な生活習慣や規範意識の涵養に努めていく。 ・生徒会活動やホームルーム活動の中で、生徒同士の交流を深め、人間関係を構築し、自他を愛する心を育み、いじめの防止への意識を高めていく。 ・学校行事等に積極的に取り組ませ、主体性や社会性を身につけさせていく。 ・外部の専門機関と連携し、生徒・保護者への支援体制を整備する。

3	自己と社会との関わりについて探究し、望ましい勤労観、職業観を育成する。	<p>・キャリア教育の充実 生徒の進路志望達成のため、生徒の学びと自己の将来とのつながりを見通しながら社会的・職業的自立ができるようキャリア教育の推進に努め、個々の生徒の資質・能力・適性の伸長を図りながら、計画的・組織的・継続的な進路指導を行う。</p>	<p>・3年間を見据えた、学年ごとや個別ごとに進路ガイダンスを実施し、一人ひとりが自分の進路について考える機会を与え、意識を高めた。 ・企業訪問やインターンシップの実施により、勤労観・職業観を磨く機会を作り、キャリアの育成を行った。 ・地域の有識者を活用し、実践的な模擬面接を行い、就職への心構えを育成した。 ・各種資格試験の実施により、キャリアを充実させた。</p>	A	<p>・長期休業期間やインターンシップに加え、日常的な就労機会(アルバイト)の構築可能性(条件整備)を検討してはどうか。 ・キャリアの育成や資格試験は大いに活用し、今後も継続してほしい。 ・自分の得意なこと、好きなことを生かし、資格取得に挑戦してほしい。時には先生方のアドバイスが必要であると思う。 ・進路について考えることを教えているのはいいと思う。模擬面接は今後も協力したい。 ・生徒はこれからは、自分に責任をもって進んでほしい。</p>	<p>・総合的な探究の時間等を活用し、一人ひとりの能力や適性を確認しながら、3年間を見据えた進路指導を行う。 ・インターンシップや進路ガイダンスなどを通して、勤労観・職業観を磨き、本校独自のキャリア教育を推進する。 ・各種資格試験を計画し受検機会を確保するとともに、対策講習などを行い受検を促し、キャリア教育を推進する。 ・キャリア・パスポートの充実に向け、今年度挙げられた課題を改善していく。</p>
4	自他を愛し、多様性を尊重し、寛容さと創造性を持ち、「生きる力」を育む人間を育成する。	<p>・健康・安全指導及び道徳教育の充実 生徒が安心・安全な学校生活を送ることができる環境づくりに努めるとともに、個々の生徒が自ら健康・体力の増進を図り、安全な生活を営むことができる能力や態度を育成する。また、生徒が教育活動全体を通じて、道徳教育の充実にも努め、一人の人間として道徳的な判断力・心情・実践的な意欲と行動ができるようになる。</p>	<p>・新体力テストを実施し、目の健康・体力を向上させる意識を培った。 ・交通安全教室・防災訓練を通して、命を守るためにすべき行動を考える機会とした。 ・性に関する講演会や薬物乱用教室、SOSの出し方教室を通して、命の大切さや自他を愛する心を育成した。 ・保健だよりの活用により、安全・健康についてすべき行動を育成した。 ・学校行事を通して、他と協力することや相手を思いやる大切さについて、考え行動できるよう育成した。やればできるという意識を育み、生きる力を育成した。</p>	B	<p>・健康は一人ひとりが自分の良好な状態や居心地のいい状態を感じ取ってほしい。自然と相手を思う気持ちも湧くと思う。 ・よい取り組みだと思う。 ・他人と協力することにより、学校行事や防災など活用できるようになると思う。 ・学校内外を問わず自らの困り感を伝えることのできる機会を様々な場面で作り出すことができている。</p>	<p>・良好な人間関係を築くためのグループワークトレーニングを、工夫して実施する。 ・学校行事等で仲間とともに協力して活動する場面を作り、協調性・社会性を身に付けさせ、相手を思いやる心を育成する。 ・生徒一人ひとりの進路目標について真剣に考える機会を設定、意識の高揚を図る。</p>
5	実践的研究の充実を図り、学校の教育課題を解決する。	<p>・研修の充実と教職員の資質向上 教育活動の充実を図るため、校内・外における研修に積極的に参加する環境づくりに努め、教職員が自らの資質を向上させようとする機運を醸成する。</p>	<p>・特別支援教育力の向上のため、ユニバーサルデザインを取り入れた授業実践(浪高スタンダード)を行い、授業力の向上と改善の視点を持ちながら、教育活動の充実につけた。 ・ICT活用例の情報を提供し、タブレット活用に向け意識を向上させた。 ・職員自らの資質向上のため、各種研修会への参加を促した。</p>	B	<p>・教職員の資質向上に頑張ってもらいたい。 ・外部研修は大切だと思う。教職と民間のすり合わせは必要だと思う。 ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業実践の継続・向上に努めていただきたい。</p>	<p>・多様な生徒へ対応するために、外部専門機関と連携し、教職員の資質・能力の一層の充実を目指す。 ・授業力向上と改善のため、研修の機会を確保する。 ・授業アンケート等を活用し、授業改善に向けた対策を行う。</p>
6	家庭や地域社会と連携し、地域活動への積極的な参加を通して、郷土に誇りを持ち、社会的に自立できる人間を育成する。	<p>・地域に信頼される開かれた学校づくりの実践 家庭・地域との連携や積極的な情報発信により、保護者や地域の人々から信頼され、必要とされる開かれた学校づくりを実践する。</p>	<p>・空き缶壁画活動を通して、家庭・地域の協力を得、活動の情報発信により、連携・理解を高めた。 ・探究活動を活用し、ごみ問題など地域を知る活動を行い、SDGsの取組などにより郷土への理解を深め、郷土への誇りを持たせた。 ・学校教育活動を学校ホームページや学校だより、YouTube、SNS等を活用して保護者・地域へ積極的に発信できた。</p>	A	<p>・空き缶壁画活動が自己有用感や自己肯定感の向上に大きく寄与している。 ・空き缶壁画は大変だと思うが中学校などの協力を得て活動してほしい。 ・長く続いた空き缶壁画活動が見られなくなるのはさみしい限りです。浪高生のボランティア活動にありがとうございますと言いたい。 ・今後も続けてほしい。</p>	<p>・伝統の空き缶壁画活動を通じて、家庭・地域の理解と協力を得て、活動状況を発信し、さらに関係強化に努める。 ・ボランティア活動等を奨励し、地域に貢献する意識を高める。 ・PTA・後援会・同窓会等と連携し、学校評議員等の意見を集約しながら、より開かれた学校づくりを行う。</p>

(11) 総括	<p>今後も空き缶壁画活動や学校行事や部活動等を通じて生徒の積極的な取り組みを支援し、地域活動やボランティア活動等を通して地域と連携しながらつながりを大切にしたい学校づくりを進める。毎日の挨拶運動を通しての生徒指導、少人数授業による学び直しと基礎学力の定着、インターンシップを含め3年間を見通したキャリア教育を進め、多様化している生徒の理解に基づく一人ひとりの実態に即した指導を全教職員一丸となって推進する。学校評議員からの意見や提言を整理し、今後の学校運営に改善の視点をもって反映させていく。</p>
---------	---